

アカバナ科 マツヨイグサ属

メマツヨイグサ (雌待宵草)

Oenothera biennis L.

自生環境

荒地、河川敷、道ばた など

原産地

北アメリカ

予想される被害

駆逐



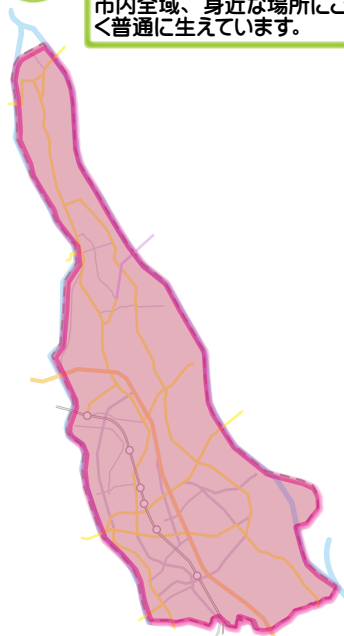
繁殖力が強いため、しばしば大群生して、背の高い草やぶをつくります。そのことにより、もともと生えていた植物の生息場所を奪ってしまう可能性があります。

特徴

- ☆ 1920年代に観賞用に導入されましたが、増える力がとても強く、今や荒地ではびこって、他の外来種とともに背の高いやぶをつくっています。それでも夏の夜に咲かせる花は、幽玄な美を感じます。花の直径は2~5cmほどで、季節が進んで気温が下がってくると日中も開いたままになります。
- ☆ 果実は棒状で、熟すと先が4つに開き、この中に細かいタネがびっしりと詰まっています。この果実はいわば「天然のタネまき器」で、風などで揺れるたびに、中のタネがすき間から散布されていくしくみとなっています。
- ☆ マツヨイグサの仲間でもよく見かけるのがこのメマツヨイグサとコマツヨイグサです。かつて多かったオオマツヨイグサは今稀になりました。オオマツヨイグサはメマツヨイグサそっくりですが、メマツヨイグサよりも明らかに大きな花を咲かせます。

市内の分布状況

市内全域、身近な場所に広く普通に生えています。



現地では根を保存食に

メマツヨイグサは夜に咲く幽玄な花を楽しむために観賞用に栽培されるだけではなく、食べられる草としても役に立っています。新芽や花、蕾は茹でて和え物にしたり、天ぷらにしたりと山菜にして食べられます。また根がとても太くなるため、「ハムの根」とも呼ばれ、アメリカ先住民は乾燥させたものを、冬の保存食としたようです。乾燥させた根は茹でると甘くて美味しく食べられます。



夏の夜に黄色い花を咲かせる



秋になって気温が下がると、昼も咲く

果実はツノのようなかたちで上向きにつく

熟すと4つに開き、風で揺れるたびに中の小さなタネがまき散らされる



茎は立ち、大人の背丈以上に育つことも多い



ロゼットで冬越しする



ロゼットは厳しい寒さにあかると赤くなる



わぴちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

